

## 第1回（仮称）「ワイがや通り」活性化円卓会議 概要

○日 時 平成24年5月29日（火）午後1時30分～午後3時30分

○場 所 習志野市菊田公民館 3階 会議室

○出席者

習志野市商工振興課：藤原、近藤 協働まちづくり課：高田、酒主

津田沼連合町会：小藪会長、古市副会長

市民活動有志：高村氏、植松氏

NPO 法人ちば経営応援隊：齋藤氏、吉村氏

NPO 法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク：小山氏

NPO 法人セカンドスペース：成瀬氏

※津田沼商店街協同組合：岡野理事長、同青年部：植草氏 →→ 欠席

### 1. 会議内容（概要）

#### (1) 事業概要の説明

- ・習志野市商工振興課より事業概要について説明（再確認）
- ・採択候補としての採択及び補助金交付申請済の報告

#### (2) 円卓会議の組織・構成メンバーについて

- ・今後、事業を本格的に展開していく上で、円卓会議の組織及び構成メンバーの確認を行った結果、本日をもって本事業のスタート＝円卓会議発足とし、現段階では、本日出席された方とこれまで本事業の企画・準備段階からご協力をいただいた方を中心に進めることを確認、了承した。
- ・併せて、今後、本事業にご協力いただける方を随時追加していくことも確認した。
- ・当面、円卓会議の事務局は、習志野市（商工振興課、協働まちづくり課）及びNPO 法人ちば経営応援隊で行っていく。

#### <円卓会議の組織>

- ①津田沼商店街協同組合、同青年部
- ②津田沼連合町会・まちづくり会議
- ③市民活動団体・ボランティア
- ④NPO 法人ちば経営応援隊
- ⑤NPO 法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク
- ⑥NPO 法人セカンドスペース
- ⑦習志野市（商工振興課、協働まちづくり課）

### (3)「地域の活性化」に関する意見交換

- ①最初に取り組むこととして、「問題点の洗い出し」を行うべき（時期）である。  
まずは現状分析（SWOT分析）から始めるべき。
- ↓
- 津田沼地区を・ワイがや通りのこれまでの経過や概要、位置、地理的要素、問題点等の情報交換を行った。
- 「ワイがや通り」の名づけの由来は数十年前になり、地元住民の中から出てきたもので、地元住民等が様々な場面で使ってきたことにより、定着するようになった。
- ②活性化には、「活性の源（人と場所）」が必要である。
- ③津田沼地区の活性化に関する取り組みの一つとして、「ハミングロードの再生化・活性化計画（事業）」がある。本事業は周辺町会でゴミ拾いや清掃等の対応を行い、現在は、休日で300人～400人程度の方がウォーキングをするようになった。
- ↓
- 地元住民がその気、やる気にならないと、何事もうまく行かない。大切である。
- ④「人を集める方策」が重要である。
- ↓
- 人も場所も“点を線で結んで円にする”必要がある。
- 情報をいかにうまく出すかが、問題ということもある。
- ⑤市の取り上げ方、取り組み方もある。（商工振興、観光振興）
- ⑥今後、日常的（恒常的）にワイがや通りに人（外部の人を含む）を呼び込む、集客する、賑わいを創る取り組みが必要である。（ハミングロードとは別に捉える。（ウォーキング））
- ⑦人が寄る方策、人を引き付ける方策が必要である。（ギャラリー等）
- ↓
- 例えば、駅から ⇒ ワイがや通り ⇒ 菊田公民館と人が流れるような
- 公民館利用者が足を止めるような面白みを作りたい。
- ⑧老朽化したアーケードも問題である。（安全性、老朽化）
- 一方で、アーケードは「雨しのぎ」、「暑さしのぎ」になっていて、助かっている面もある。
- ↓
- 撤去、改修等が現実難しい状況であれば、つる型の植物を付ける等の対応も可能と思われる。（エコ+見栄え）
- ⑨集める人について、ターゲットを絞るのも一つと思う。（大人、女性、花の見所等）
- ↓
- 公民館活動の絵や写真等を飾る、売る等の仕掛け作り
- 他所の成功事例のように、明確なテーマに特化したまちづくりが有効ではないか？  
（中野ブロードウェイ＝アニメ・オタク など）
- ⑩活性化に向けたアイデア出し、問題の洗い出しについて、地域の方等から募集してはどうか。テーマを絞って地域外の人に見つけてもらう。
- ↓
- 円卓会議の中で、アイデア出し（募集）する方法、方策を検討して実施する。  
“アイデア出し ⇒ 地元の人＝外部の人 ⇒ 出会いの場を作る”

第1回円卓会議（平成24年5月29日 開催）

- ⑪津田沼商店街の中でも「ロングホーン」や「焼き鳥屋」、「看板が一風変わっている不動産屋」など、なかなか面白いお店も増えてきている。
- ⑫若い人＝音楽（ジャズ、フォーク等）⇒ストリートライブ
- ⑬地元では、「菊田公民館の祭り」、「津田沼地域の夏祭り、秋祭り」など、色々なイベントが実施されている。既存のイベントを把握した上で、他にない取り組みを考える必要がある。
- ↓
- 地元の「年間イベントの洗い出し」が必要（ワイがや通り、地域等）
- ⑭今後、拠点の運営方法等も検討する必要がある。
- ↓
- 借りられる空き店舗をリスト化する。
- ⑮事業実施に係る業務委託・契約も検討、準備する必要がある。
- ⑯まちおこしの基本は「あるもの探し」。歴史・イベント・産物・人物など、既に地域にある強み・特徴を探し出す。⇒「マップ作り」、情報提供
- ↓
- 千葉工業大学の鎌田先生に協力を求めたらどうか
- ⑰「活性化」と捉えるのか。「再生化」と捉えるのか。
- ⑱京成津田沼駅の利用客数、乗降客数＋駅から出てくる人の数を把握する必要もある。
- ↓
- 京成津田沼駅の乗降客数（吸引率） — 1日平均約95,000人。\*乗換客も含む  
京成線 52,619人（平成23年度・京成電鉄線内5位・京成電鉄公式HPより）、  
新京成線 42,391人（平成22年度・新京成電鉄線内4位・新京成電鉄公式HPより）
- ⑲ワイがや通りには、休む所が少ない。⇒人が集まれる場所を作る必要がある。  
（年配の人を呼ぶためにも）
- ⑳マップ作りのチーム⇒千葉工業大学 鎌田先生
- ↓
- 交通量調査などもお願いしたい。
- ㉑ホームページと並行して、情報発信のツールとして facebook を、集客のツールとして twitter を、積極的に活用していく。
- ㉒「円卓会議」という名前が固い。親近感が生まれない。
- ↓
- 今後、ネーミングを考える。次回、円卓会議の名称を考え、持ち寄る。
- ★次回円卓会議
- 日 時：6月26日（火） 午後1時30分～
- 場 所：サンロード津田沼 6階 特別会議室
- ※商店街関係者の出席⇒必須、要確認

（4）主な決定事項、確認事項等

①円卓会議の組織及び構成メンバー

⇒・本日をもって本事業のスタート＝円卓会議発足とする。

・現段階では、本日出席された方とこれまで本事業の企画・準備段階からご協力をいただいた方を中心に進める。

・併せて、今後、本事業にご協力いただける方を随時追加していく。

・当面、円卓会議の事務局は、習志野市（商工振興課、協働まちづくり課）及びNPO法人ちば経営応援隊で行っていく。

②円卓会議の中で、アイデア出し（募集）する方法、方策を検討して実施する。

“アイデア出し ⇒ 地元の人＝外部の人 ⇒ 出会いの場を作る”

③地元の「年間イベントの洗い出し」

④千葉工業大学 鎌田先生への協力依頼（マップ作り、交通量調査など）

⑤ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどを活用して、情報発信を行う。

⑥今後、「円卓会議」のネーミングを作る。⇒次回会議で検討する。（提案）